

# L-DIMENSION 解析による AD 患者と非 AD 患者の識別

武者 利光<sup>1)</sup> 田中 美枝子<sup>1)</sup> 松崎 晴康<sup>1)</sup> 高尾 武男<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>(株)脳機能研究所 <sup>2)</sup>医療法人全仁会倉敷平成病院



## 目的

脳波パワーのゆらぎから脳内ニューロン活動の異常部位を推定して、MCI-AD 患者および AD 患者を高感度で識別する解析方法 (L-DIMENSION) により、倉敷平成病院で長期間脳波測定された患者例について、AD と非 AD (合併症) の識別を試みる。

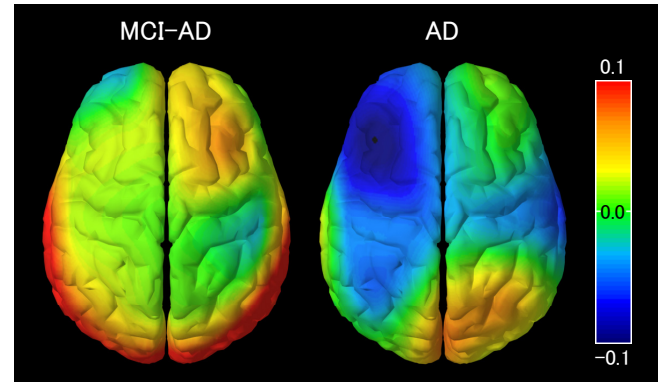
## L-DIMENSION 解析 (Local Diagnosis Method of Neuronal Dysfunction)

先行研究 (T.Musha et al., Clin. Neurophysiol., 113 (2002) 1052-1058) で得られた MCI-AD 患者 21 名と AD 患者 28 名の NAM (Neuronal Abnormality Map) の集団平均テンプレートを用いて、「MCI-AD 類似度」と「AD 類似度」を算出する。

## 対象

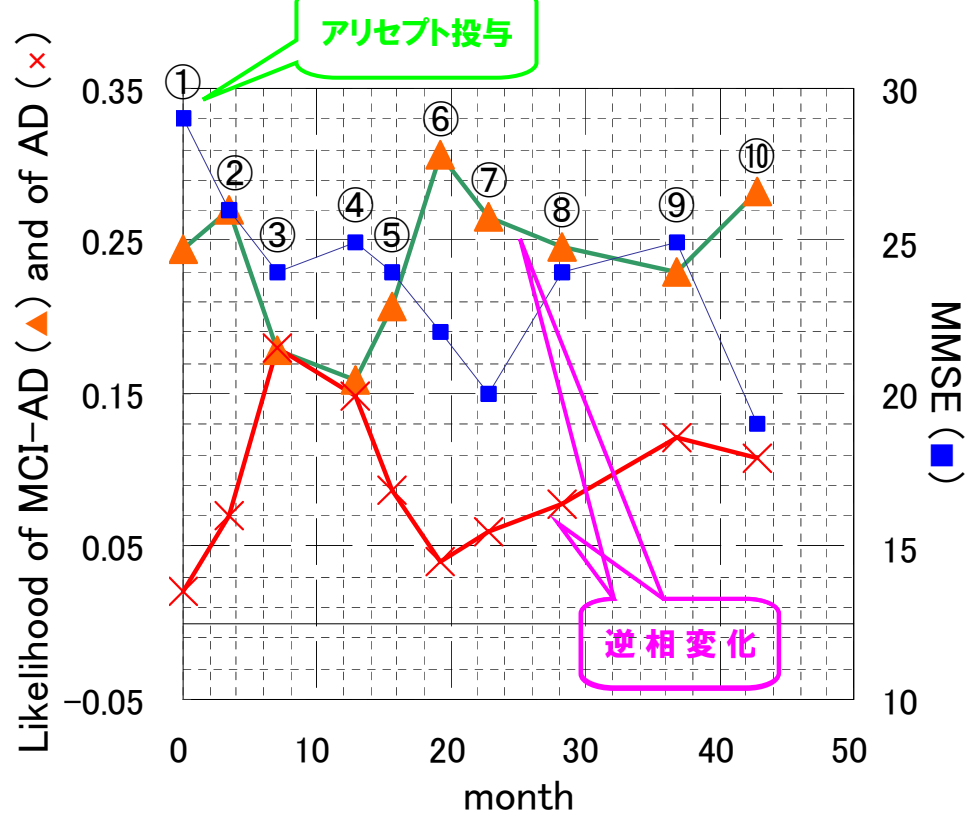
倉敷平成病院に物忘れを訴えて来院した外来患者 47 名 (男性 18 名、女性 29 名) について、約 6 年間、約半年ごとに脳波と MMSE スコアを記録した。

	年齢	MMSE
初診時 (Mean±SD)	78.1±6.4	21.3±5.2

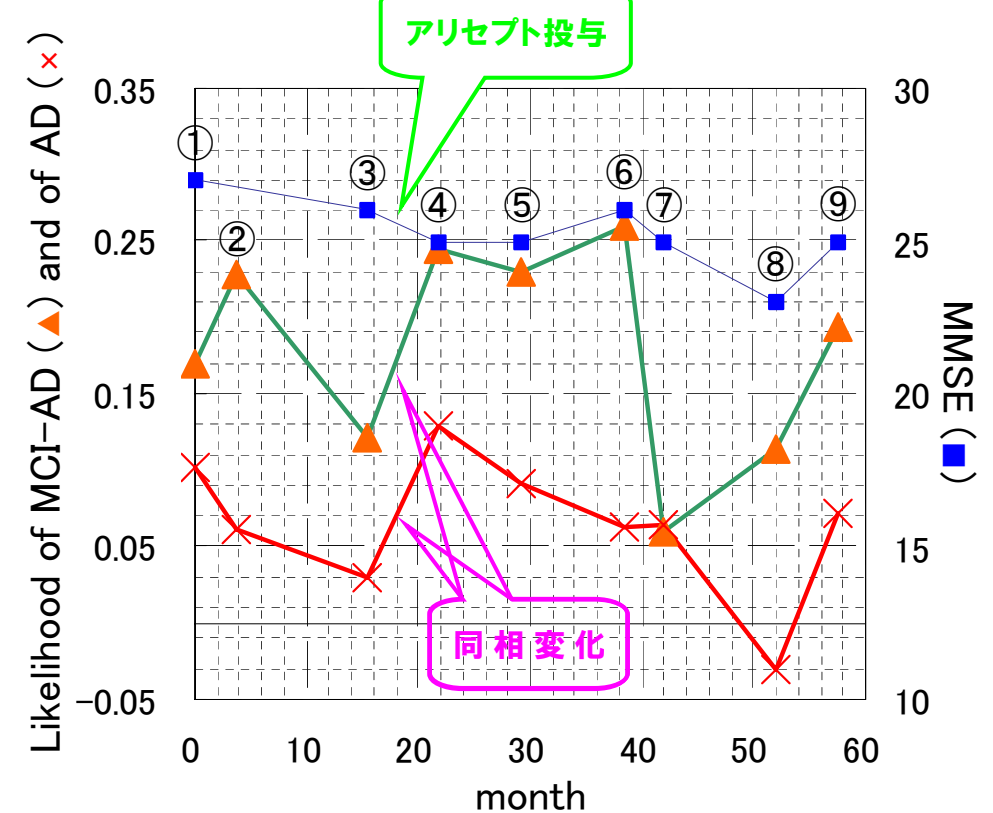


## AD 患者と非 AD 患者における MCI-AD 及び AD との類似度 (Likelihood) の経時的変化

### 1) AD 患者例



### 2) 非 AD 患者例



## Likelihood Diagram による経時的変化

